

群 教 セ	G01-03
	平 17.230 集

吹き出しの書き込みを行う支援教材 「なりきり君」の作成と電子掲示板の活用

—— 自己を作品にかかわらせて、自分なりの読みができる生徒の育成 ——

特別研修員 大日方 信康（玉村町立南中学校）

《研究の概要》

本研究では、中学校国語科「読むこと」領域の小説において、生徒が自分自身を作品にかかわらせてその生徒ならではの読みをさせるため、Webページ上で吹き出しの書き込みができる支援教材「なりきり君」を作成した。生徒は、叙述を追いながら登場人物になりきって吹き出しへの書き込み・検討を進める学習で、自己を作品にかかわらせることができた。また、吹き出しでの問答や電子掲示板上で交流を進める活動で、自分なりの読みができた。

キーワード 国語一中 読むこと 文学教材 Webページ 電子掲示板

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領の目標「読書を生活に役立て自己を向上させる態度を育てる」ために、文学教材は生徒が自己を見つめ様々考え悩み変容するような学習を目指したい。教師は説明により表面的な理解をさせるが、学習者に活動を通してさらに「体験的な読み」に深めていきたい。

「体験的な読み(西尾実は『文学体験する』と呼んでいる)」とは、生徒が虚構の作品世界の登場人物になったかのごとく感情を持ったり、事件などの出来事を実地に経験したかのごとく味わうことである。言語によって作られた虚構の世界を生きることによって言葉との出会いを行い、言葉の世界や認識を豊かにする経験を積む。そして周囲の状況や人間そのものについて、また人間のあり方や物を見る目を養う体験をすることである。文学教材で、生徒が主体的に小説にかかわり、あたかもその作品の主人公のようになって自分だったらどうするかとか自己の生き方に重ねたり、自分と全く違った環境に我が身をおいて様々な体験を積み重ねて、自己を向上させる態度を育成したい。

ところが生徒は、文学教材に対して受け身の姿勢が多く、作品の中の出来事は他人事であり自分とは関係のないことと考えて読むことが多いという実態がある。すなわち、文学教材の学習後生徒が自分自身を見つめるようになった・自分の将来の生き方を考えるようになった・他の人とのかわりや人生というものについて考えるようになった

たとかいう変容が少ないのである。生徒は、どっぷり本に浸って冒険する楽しい気持ちになったり、主人公の境遇に自分ならどうするかなど悩んだりするような経験に乏しいと考える。

そこで、本研究では支援教材を作成し、コンピュータを活用することで、深く強く作品にかかわる活動となり「体験的な読み」を目指す授業を創りたいと考えた。

第一段階としてコンピュータを活用した初発の感想交流を行う。交流が熱いうちに即時にできるという利点を生かし、生徒が自らの読みを意識していく。第二段階としてコンピュータを用いた吹き出しの書き込みで、生徒が登場人物になりきって、徐々に作品世界に入り込んでいく。吹き出しは電子掲示板で交流をし、山場の場面では登場人物になりきった生徒同士で問答する活動を行う。その生徒ならではの読みを目指す。以上のような活動ができる教材を作成し、電子掲示板の活用を行えば、作品にかかわり自分なりの読みができる生徒を育成できると考え本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校国語科「読むこと」文学教材の学習において、コンピュータで初発の感想交流を行い、読解の要所場面での登場人物の吹き出しを書き込ませ交流することは、自己を作品にかかわらせて、自分なりの読みができる生徒を育成する上で有効であることを実践をとおして明らかにする。

III 研究の見通し

1 国語科「読むこと」文学教材の導入場面において、コンピュータで「初発の感想交流」を行う電子掲示板を活用すれば、生徒は他との違いを意識し自分なりの読みを意識できるであろう。

2 国語科「読むこと」文学教材の指導の読解を深める要所の場面において、登場人物の吹き出しをコンピュータ上で書き込ませたり電子掲示板で読み合ったりして交流させることで、生徒が作品に深くかかわり自分なりの読みができるであろう。

IV 研究の内容

1 支援教材「なりきり君」の概要

(1) 基本的な考え方

①「初発の感想交流」級友の読みと比較し良いところを参考にしたり違いを意識しながら自分の読みを意識する。



②「吹き出しへの書き込み」Ⅰ 人物の心情や情景描写に注目しながら作成する。→登場人物に同化(なりきる)する。



③「吹き出しへの書き込み」Ⅱ 自分ならどう言う？どう行動する？→文学作品に自己をかかわらせる(結びつきを深くする)。



④作品に深くかかわり自分なりの読みができる。「体験的な読み(文学体験する)」となる。



⑤次なる読書活動へ向かう力を養う。自分の生活を見つめ、意見を持ったりする。

2 支援教材「なりきり君」の内容

(1) トップページ

大きく分けて「初発の感想交流」と各場面の「登場人物になりきって吹き出しを作成するページ」そして発展的な「読書案内」の三つの項目からなっている。生徒の希望により創作に進んでもいいようなページも用意してある(図1)。感想交流と吹き出しの作成のページはそれぞれ電子掲示板へのリンクを設定した。

図1 支援教材トップページ



(2) 「初発の感想交流」のページ

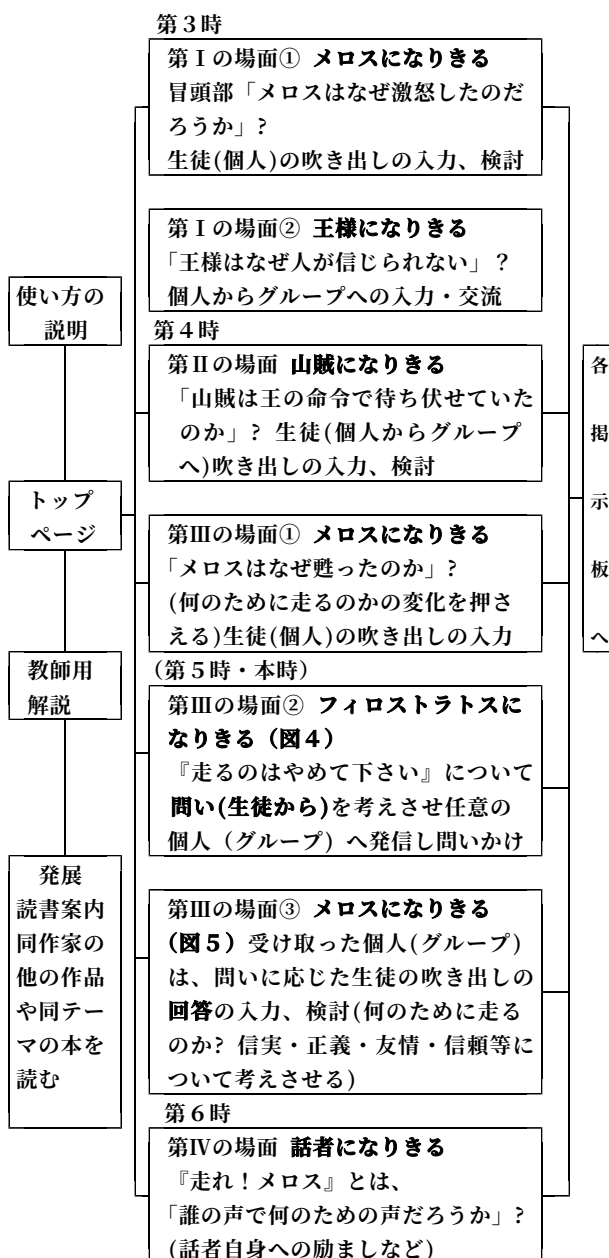
「初発の感想交流」をクリックするとフリーソフト「fantasy」(KENT WEB)の電子掲示板が表示される。一読後の初発の感想を入力して一斉に読み合う。電子掲示板は、一覧表として一目で閲覧できる。36人いれば、36通りの読みの切り口があり、それぞれの個性的な読み方は、自己の読みを意識するために参考となる。返信したい相手の画面の返信ボタンを押すと入力画面が表れ、即座にメールを送ることができ、感想欄の後ろにつく(図2)。生徒同士「素晴らしいメール」や「アドバイスメール」でやりとりして自己の読みの良いところや不足している観点について友達から指摘を受け取る。それによって生徒は自分を振り返り自己を見つめ、自己の読みというものを意識しその生徒ならではの読みが可能となる。即時に双方向な交流が可能のため、生き生きと活発なやり取りが行える。メールを受け取らない生徒がいたりメールが集中する生徒がいるであろうが、指導者が交流の状況によって配慮していく。記名は、生徒に一任する。

図2 初発の感想交流一覧表示ツリー形式図



(3) 支援教材「なりきり君」の構成図と単元計画

- ・第1時 CD範読による通読
- ・第2時 初発の感想交流
- ・第3時～第6時 「吹き出し」の作成、交流



へと進む。問答を行う場合は、問いも生徒が考え、別の生徒に問いかける(図3)。問われた生徒はもし自分がその人物だったらこう言うだろうという吹き出しで応える(図4)。メール機能を生かした問答の過程は、教師からの問いではなく、生徒同士独自の問いかけが届くものであり、自己の問題として真剣に考える活動である。吹き出しを作成するためには、叙述を一生懸命読み込まなければならず、生徒は自然と叙述に注目する。そして登場人物になりきりながら、吹き出しを考えると、「自分だったらこうするだろう」と自分を見つめたり自己と照らし合わせたりする。そこには自然にその生徒の今までの生き方や経験、考え方を背負った自分なりの読みができる。

図3 吹き出し問いかけページの入力例

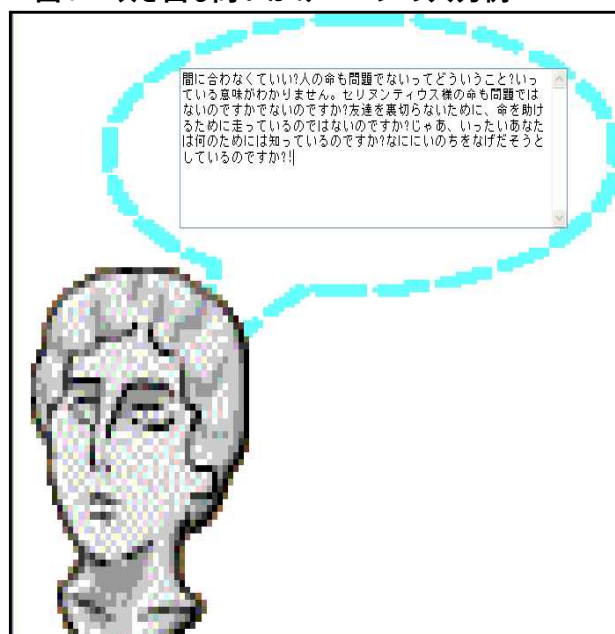
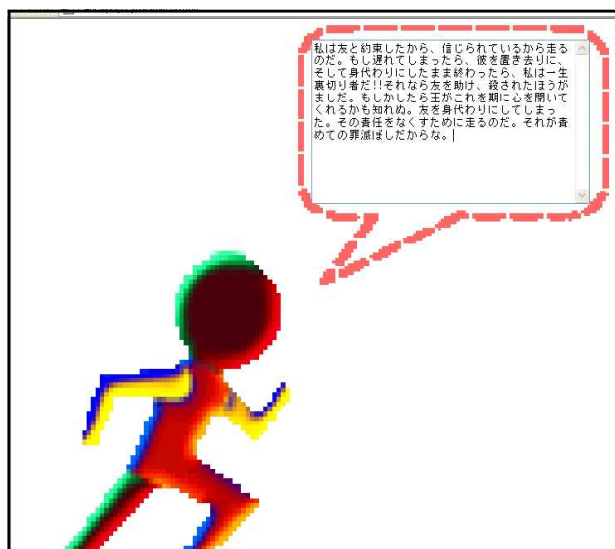


図4 吹き出し答えるページの入力例



(4) 問いのページ

指導者は、叙述から離れないように大切な表現を指摘したり考えさせたりしながら、支援をする。生徒はトップページから各場面のボタンをクリックすると、教師の画像が現れ問いが発せられる。読解の重要な節々で主題にかかわるような個設定してある。生徒は考えがまとまったら「NEXT」のボタンをクリックして答えのページへ進む。

(5) 答えのページ

Webページ上に配した登場人物のアニメーション(朝日新聞社のアニメ映画より著作権は許諾済み)に吹き出しをつける。吹き出しは、単なる会話文ではなく、生徒が登場人物になりきってその場面のその立場だとしたらと想定した回答を入力する。そして掲示板へのボタンをクリックし交流

V 実践の結果と考察

1 授業実践計画

前項のIVの3(3)学習支援教材「なりきり君」の構成図と単元計画参照。

2 検証計画

検証の観点	検証の方法	処理・解釈
○生き生きと活動に取り組んでいる。 ○作品の内容（主題、思想）について考えを深めることができる。 ○作品の内容について、生徒自身の生き方などに引き付けて考えることができる。	・授業中の取り組み状況の把握。 ・Web支援教材の吹き出しの作成の内容、導入と終末部分の比較。 ・電子掲示板上の交流をした後の吹き出しの内容の変容と問答の見取り。 ・初発の感想とメロスが甦った理由の吹き出しの比較、事後のアンケート。	○観察による見取り。 ○吹き出しの内容によって、生徒の読み取りがどれだけ深まったか判断する。 ○事後のアンケート結果を比較分類し、数量的にとらえ分析する。 ○生徒なりの経験が書かれている割合とその生徒独特の文体考え方を判断する。

3 授業実践

(1) 本時の学習例(第5時)

ア ねらい コンピュータによる登場人物の吹き出しの書き込みを作成・交流をする活動をととして、生徒が自分なりの読みができるようにする。

イ 準備 コンピュータ、支援教材「なりきり君」、フリーソフト「fantasy」、CGIの設定(active perlとhttpdサーバ)。

ウ 展開

主な学習活動・ 予想される生徒の反応	時	学級全体への支援、 および指導上の留意点	具体的な評価項目と評価の方法 および、個に応じた支援（・）等
1 導入 フィロストラトスとメロスになりきり、吹き出しの作成検討をする中で読みを主体的にする。問答で作品に入り込み深くかかわる。	5分	学習する内容を知る。 本文の表現に基づくこと。	生徒は登場人物になろうとし自分を作品世界に関わらそうとしているか？ ・根拠となる本文の表現に注目させる。 ・教師が君がフィロストラトスとメロスの立場だったらどうすると問いかける。
2 展開① フィロストラトスが走るメロスに追いつく場面。「走るのやめてください」について、フィロストラトスになりきり問いを考えさせグループで吹き出しを練り上げ、任意のグループへ問いかける。	15分	フィロストラトスは「もう間に合わない。セリヌンティウスは最後まで信じていた」と言っていることに気付かせる。例『何のためにそこまでして走っているのですか』『もっと恐ろしく大きいものとは何か』など。	話し合いの様子や吹き出しを観察し、作品世界が想像でき、作品を味わっているか評価する。 ・本文およびコンピュータに集中しているか？ ・根拠となる本文の表現に注目させる。
3 展開② 問いかけられたグループが問いに応じて、メロスの吹き出しを検討・作成し返事を返す。	25分	メロスは、「信じられているから走るのだ」から「間に合う間に合わせは問題でないのだ」「人の命も問題でないのだ」と言っていることに注意させる。例『正義』『信頼』『信実』『愛』『人類愛』等。	走る理由が昇華されていることに気がついたか？相互のやりとりの中で、読みが深まったか？吹き出しをみとる。生徒自身の体験に触れることができる。さらに問答が発展しても良い（図5）。 ・教師が君がメロスの立場だったらどうすると問いかける。
4 まとめ 次時の予告をする。	5分	生徒の実体験の中から、似たような体験がないか探す。	言葉の上だけではなく、生徒自身が自分のこととして考えているか。

図5 深め合いの掲示板一覧表示ツリー形式



図6 授業風景



4 結果と考察

(1) 本時の展開(第5時)の問答の例(カタカナは、類型別に分類したもの)

【フィロストラトス】問い

ウ 人の命より大切なものがあるものか。命さえ助かればいいではないか。あなたはそれ以外に何を望む。もし、人の命以上に大切なものがあるとしたらそれは何だ答えられるものなら答えてみる。

【メロス】答え

ウ 私を信じて待っていてくれる人がいるからだ。しかしそれだけでなく、私は自分自身の心に勝ちたいのだ!!途中で投げ出そうとしたあの情けない心!私は親友の命を捨てようとしたのだー。もうあんな情けない自分には戻りたくない!今もし走りきって自分の心に勝つことができたならー。私はもっと強くなれるような気がする!

生徒の問いかけを分類すると大きく四つに分類できる。アまったく理解不能なもの。イ改めてもう間に合わないと訴えるもの。ウ人の命より大切なものは何かという問いかけ。エどうしてそこまでして(自分の命を捨ててまで)走るという問いかけ。ウを答えた生徒は、普段部活と勉強の両立に悩んでいる生徒であり、自分自身の体験を作品に投影させている。人の命より大事なものは、自己の心に打ち勝つということ、自分も自分の弱い心に打ち勝ちたいという思いが吹き出しに表れている。自己を作品にかかわらせた例といえる。走っている場面の臨場感やメロス(=読者=生徒)が走っているような体験はできたと思われる。八割以上の生徒が走っている場面の臨場感やメロス(=読者=生徒)と一緒に走っているような体験はできたと答えている。「読む」という行為自体が疑似体験になるのだということを実感した生徒はほぼ九割に上った。そして、太宰の他の作品を読んでみようという生徒が三割おり、同じテーマの作品(武者小路実篤の「友情」など)を読みたいという生徒が半数近くいた。文学というのは、今まで難しい特別なものだと思っていたが、「人生(人間)いかに生きるべきか」を教えてください考えさせてくれるものだと思ったという生徒がいたのは、大きな収穫である。

(2) 研究の見通し1に対するまとめ「初発の感想交流」で、生徒が自分に引き付けて考えたり、その生徒なりの読みができていくかの検証

○ 初発の感想交流例(●配慮生徒○中位群)

●① セリヌンティウスがメロスを信じれてすごいと思った。メロスが山賊を倒したのがすごかった。メロスが流れの強い川を泳いだのがすごかった。メロスがあきらめないで走ったのがすごかった。

↓

●①' お互いが強い友情で結ばれていると思った。僕もこのような親友が欲しい。僕がメロスなら友達=親友を裏切らないぞ。

○② 友達のために、何事にも負けずに走り続けたのがすごいと思った。途中から友達を疑ったけど、最後は決心して城に行ったのが感動した。

↓

○②' メロスが走ったのは友情のためだけに気がついた。

「初発の感想」は、生徒自身が気が付かないうちにも、自分の問題意識・追求したいテーマ・深めたい読みを内包している。それを「交流」して他との違いを意識しながら自分の読みを修正したり、自分に引き付けたりして深めている様子が分かる。最初の留意生徒①は、「すごい」「すごい」の連発で、メロスの表面的な行動にしか眼が向いていなかったが、掲示板での交流で他の級友から「何がすごいのか」というアドバイスメールを受け取り彼なりに考えて、その行動を支える「友情」という心の面に注目し「僕がメロスなら～」という視点が生まれている。中位群の生徒②は、ともに「友情」に注目した型どおりの読みであるが、②の生徒は、短いながら「メロスが走ったのは友情のためではない」というコメントを発しており、今後の読みを広げる展開が期待される。従来、「初発の感想交流」は、次時にプリントで行っていたが、これではせっかく萌芽しかけてきた問題意識が冷めてしまい、一度思考は停止してしまうが、即時に思いがさめないうちに行えるコンピュータの良さを実感した。

○ 普段意欲が低い生徒も自ら進んで意欲的に取り組み、普段遠慮していて発言しない生徒や性格的に恥ずかしがる生徒が数多く、電子掲示板で積極的に発言している姿に驚嘆させられた。話し合いに参加し交流に加わっていた。

○ 意外な生徒が予想もしない考え方をしていることが分かったりして、全員参加の授業が成立した。授業後の満足感・達成感が大きく上位群の生

徒も配慮する生徒も含めて全員で取り組んでいた。

(3) 研究の見通し2に対するまとめ。それぞれの「吹き出し」は、作品世界に深く関わることに有効だったかの検証

○ 第Ⅰの場面②王様になりきる (◎上位群)

「吹き出し」の例

◎ ディオニスはなぜ人が信じられない?の吹き出しの作成

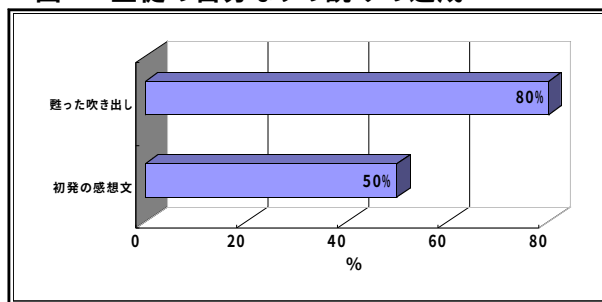


◎黙って聞いている。俺にはつらい過去がある。
俺を信頼していた親友に裏切られたのだ。それから人が信じられなくなった。その親友に裏切られたお返しに、今人を殺している。そして恨みを晴らしているのだ。これが俺の平和だ。メロス、お前が、三日後に帰ってくるとは思えない。またこいつも裏切られる運命か?はっはっはっ、その時にわしの言った本当の意味がわかるだろう。

生徒はディオニスになりきって裏切られた過去を想像し創作した様子が見とれる。単に王は悪人ではなく、「眉間のしわ」や叙述から王なりの苦悩があることを読み取ったことが分かる。

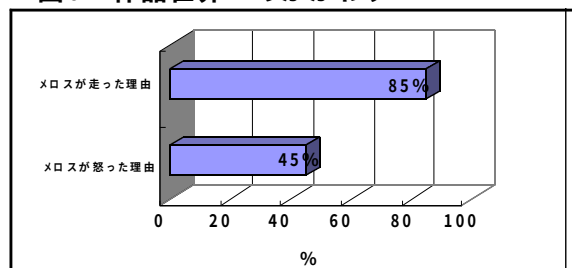
○ 初発の感想で「自分なら～する」という記述は約5割であったが、授業中盤の「メロスが甦った理由の吹き出し」で生徒の考えや経験が盛り込まれていた割合は80%で(図7)、「自分なりの読みは成立した」と分析する。

図7 生徒の自分なりの読みの達成



○ 授業展開上で、フィロストラトスとメロスのやり取りを生徒同士の問答に置き換えたのが効果的だった。誰のどんな問いが届くか分からないので真剣に考えようという姿勢が、必然的に主語を登場人物のものにし、なおかつその生徒なりの考えが反映する割合が85%を超えたので(図8)作品世界中へのかかわりは強まったと考える。

図8 作品世界へのかかわり



○ 操作画面により生徒の形成的評価が容易で効果的な支援が可能である。また指導の経過や生徒の学習結果が記録に残るので良い。

○ コンピュータの画像は、文学教材を読むのが苦手な生徒に効果的な支援ができた。

○ 進度が早くテンポよく進められた。また一人一人が納得のいくまで何度でも返信(レス)を用い一対一で考えを出し合えるので周りに気を使うことがなかった(図5)。その交流の状況は電子掲示板で見ることができるので、その生徒同士だけではなく、全員で共有できた。

○ 生徒は吹き出しを作成するために本文を丹念に追わなければならない、一生懸命に何度も繰り返し読み込み叙述に忠実に学習できた。

Ⅵ 研究のまとめと今後の課題

コンピュータを文学教材における読みの授業で活用したことにより、生徒が意欲を高め、読みを広げることに有効であった。「初発の感想交流」で自分なりの読みというものを意識し、「吹き出し」の作成・交流で作品世界にかかわり自分なりの読みができた。「体験的な読み(文学体験する)」はできたが、読みの深まりを見取って評価することは難しい。電子掲示板の一覧ツリー表示の情報の多さに圧倒されてしまう生徒がいたので改良の必要がある。ひらがなの繰り返しや強調したいところで「オー」や「ウー」を連発する生徒がいたので、表現力を育成したい。他の文学教材(詩、短歌・俳句)や説明文教材に、コンピュータの特性を生かして活用していきたい。

<参考文献・注>西尾実著 『国語教育論修』 明治図書1984年・アニメ画像の一部は著作権に配慮して入れ替えてある。

(担当指導主事 根岸 卓)